



「是より北 木曾路」の碑
 ここは長野県と岐阜県の境、木曾路の入り口にもあたる。昭和（五年）（一九四〇）七月、当時六八才だった藤村が、地元の要請により揮毫したものである。藤村は六〇才ころから自らを「老人」と記すようになった。
 この碑は藤村記念館の落成十周年を記念して、昭和三二年（一九五七）一月に藤村記念館建設の実行母体である「ふるさと友の会」によって建立された。

馬籠城跡
 この辺りの地名を「左山」とも「塚山」ともいいますが、今から五百年ほど前の室町時代から「馬籠城跡」とあつたことが記されている。
 戦国動乱の時代、馬籠は武田信玄の領地となるが、武田氏滅亡後、織田信長がその領地を奪って、其の地を木曾氏の領地とする。天正（二年）（一五八四）三月、徳川家康は小牧山に討ち上り、秀吉は徳川家康の攻め上ることを防ぐため、木曾義隆に木曾野分領を命じた。義隆は共謀を遂げて山村貞勝に妻籠城を命じた。馬籠城は高崎重忠（馬崎藤村の祖）が守備した。
 天正（二年）九月、徳川家康は飯田の菅野定利、高遠の佐科正直、諏訪の細野常光に木曾攻めを命じた。三軍は妻籠城を攻め、その一部は馬籠に攻め入り馬籠の北に陣地を構えた。
 馬籠を守っていた島崎重忠はあまりの大業、其れに恐れをなし、夜陰に紛れて木曾川沿いに妻籠城へ逃れた。このため馬籠の落城は織田氏から免れることができた。
 三軍の陣地を敷いた馬籠原の北の辺りを「陣地」といふ。
 慶長五年（一六〇〇）、関ヶ原の戦いで天下を制した家康は、木曾を直轄領としていたが、元和元年（一六一五）尾州藩制の施行となり、以後戦火のないまま馬籠城は守り続けた。

～～山はみどり 野に花 人にはころろ～～

やがて、馬籠宿の中心へ。馬籠と妻籠は、中山道の人気スポット。

国内外の観光客も多く、主な場所だけ、特に、清水屋資料館には、島崎藤村関係の資料があり、今一度、拝見、時間を使った。団体客も多く、ママチャリでは迷惑になりそう。

見てまわるコースも、一工夫して、楽しんだ。

